

日本や母校をもっと身近に感じるようになるのではないかと思います。また、日本学を世界に広げるためには海外にいる学者との共同研究も進めるべきだと思います。そのためにはたくさんの研究費が必要です。このような共同研究によってお互いの視野が広がるし、日本学も国際化できると思います。

## フロアーからの発言

### ブラジルで教えて

鈴木 泰

私はかつてブラジルのサンパウロ大学の日本文化研究所に客員教授として行ったことがあります。もう10年ほど前のことになりますから、現在とは大分事情は違っていると思いますが、そのころの経験でもまだいくらか現在と共通する問題はあると思いますので、その時の経験をもとに話させていただきます。なお、その時ちょうど、国際交流基金の主催で中南米の日本語教師に対する巡回指導というものが行なわれており、それに参加する機会を得ましたので、その際に回ったアルゼンチン、メキシコでの経験もとりまぜてお話ししたいと思います。

私ははじめサンパウロ大学ではいわゆる日本語教育をしてくれということだと思っておりましたが、そのうちに、古文や漢文について教えてほしいのだということが分かってきました。なぜそうなのかというと、現代日本語については現地のスタッフで十分教えることができるが、古典はそうはいかないからだということでした。さいわい、現地で用いられていた日本語の文法の教科書はほとんどかつて日本の中学で用いられていた現代語文法の教科書と枠組み、および内容が同じものでしたので、同じ枠組みの高校生用の古典文法の教科書をそのまま使うことができました。なぜ、最近の日本語教育で用いられている新しい枠組みを用いないのかと聞いたところ、私たちにはその方が分かりやすいのだという話でした。私は、常々、学校文法の枠組みは、それによって日本語を習得する必要の無い日本人にはそれで十分かもしれませんが、それによって日本語を習得しようとする日本語学習者にはほとんど役にたたないものだという考えをもっていました。しかし、このような問題点はあるものの、もしブラジルで現代日本語の教育が学校文法の枠組みで行なわれていなかったら、高校の古典文法の教科書をそのまま使うこともできず、古文の文法をどのように教えるかでさっそく迷ってしまっていたことだろうと思われます。もし学生たちが、現在日本語教育で普通に行なわれている国際的なスタンダードに立った文法で現代日本語を習得してきた学生であって、学校文法流の古典文法の教科書を与えられたとしたら、古典文法を習得する困難さは予想を超えるものであったろうと思われます。それ以来私は、国際的なスタンダードに立った現代日本語文法を勉強してきた学生にとっては、国際的なスタンダードに立った古典文法の教科書があれば、ずいぶん助けになるのでないかと思い、いつかそうしたものを作る機会を得たいと思っています。

教育情勢の変化にともない、日本人学生用にもあらたな古典文法の教科書が必要になりそうです。そ

これは学習指導要領の改定で、古典語古典文学の時間が大幅に減らされ、高校でも古典は教養程度にしか教えられなくなることが確実だからです。これまでは自力で古典が理解できるようにするため、高校では古典文法の教科書が使われることが普通でしたが、これからは一般にはそのようなことはなくなるのではないかと思います。そして、学校から古典文法の授業がなくなるということは、現代語文法の授業もなくなるということであると考えられます。現代語の学校文法のシステムは古典語文法のシステムにならってつくられたものであり、現代語文法を学ぶことは古典文法を理解するためにのみ意味があったと考えられるからです。そして、現代語の学校文法を知らない生徒に古典語の学校文法の教科書を与えるのは可哀そうですから、日本人生徒のためにも、学校文法のシステムに頼らない、国際的なスタンダードに立った、あらたな、実り多い古典文法の教科書の開発が求められているということでしょう。

ところで、サンパウロ大学でこうした教育方針がとられていたのは、おそらく日本語を第二言語として習得する必要のなかった日系の2世が、現地のスタッフであったためだと思われます。実際、中南米といっても、アルゼンチンでは日本語教育の担い手は海外青年協力隊の人達でしたし、メキシコの日墨学院ではスペイン語を勉強しにきた日本人留学生や日本の商社マンの夫人たちでした。全体、ブラジルでの日本語教育の担い手が、日本文化に対して特別な憧憬のある日系2世ではなかったとすれば、私が日本からわざわざ出向いて古典語を教えることもありえなかったことだと思われますし、そうでなければ私もこうした問題について考える機会を与えられることはなかったはずだと考えますと、結果としては大変ありがたいことであったと思っております。

なお、この機会に気になっていることを1、2述べておきたいと思います。まず、日本研究を行なっていないながら、研究環境にめぐまれていない研究者を日本に呼び、研究を発展させる機会を与えることは重要なことと思われます。そうした目的のために本学にも外国人客員研究員制度というものがあるのですが、その制度によって研究員として認められても、長期ビザの取得がかなわないということが実際にありまして、学術交流に十分な理解を示さない在外公館があることに問題を感じています。

また、本専攻だけで考えてもしかたがないのですが、アジア諸国などでは一歩大都市から離れば日本文化を知ることのできる書籍を見ることは大変だときいていますので、現在どこにいても未整理の寄贈図書が置いていない大学はないと思いますが、そうしたもののの中から日本語教育、日本研究に役立つようなものを、必要としている現地に送る手助けをするというようなことも大切なことのように思われます。

## タイの国立大学における日本語学、日本文学に関する研究データの現状と問題点 タウィペン・スントラーチャー

これからタイの国立大学における日本語学、日本文学に関する研究データの状況と問題点について述べさせていただきます。

私が所属していた大学の日本語学科の図書室にはある程度の参考書が備えてあります。しかし、その多くは日本語の教科書や練習帳、日本語教授法などといったもので、授業を行うために実用的ではありますが、学問的な参考書は少ないです。文学関係には、古典文学全集、近代作家の全集などがあります